

学校・校区の様子

本校は明治9年9月9日創立、昭和9年の市政施行とともに海南市立大野小学校となり、昭和57年に現在の地に全面移転した。校舎は芸術性・文化性を各所に取り入れ、当時としては機能的な近代建築で、校地も広く設備の整った環境のもと教育活動が営まれている。校地は、藤白山系の北斜面の丘陵地を切り開いた校区南側の高台にあり、南に大野城遺跡のある嶺々を仰ぎ、北は海南市の市街地を一望できる恵まれた環境に位置している。

また、市街地からも離れているため静かで、周辺の間々からは野鳥の音が聞こえるなど自然にも恵まれている。校区の中心を南北に阪和自動車道が横切り、学校の近くには海南東ICがある。校区には県立海南高校、海南市民グラウンド、総合体育館をはじめとする文教・体育施設、隣接して2017年に移転した市役所や海南インテリジェントパーク、わんぱく公園等があり、教育・文化・行政面で地域にもたらす影響は大きい。

保護者は教育に対する関心が高い上に、学校教育の振興には支援を惜しまず協力的である。また、青少年健全育成を願い、社会体育をはじめとするスポーツ活動にも熱心である。平成30年度には保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度を導入し、コミュニティスクールとして地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進している。また、新しい育友会の形として保護者の児童支援活動が令和6年度より開始する予定である。

児童数については、若干減少の傾向にあったが、校区内に規模の大きな分譲地ができ、ここ数年はほぼ現状を維持する見通しとなっている。令和6年度、本校の児童数は以下の通りである。

令和6年度児童数・学級数

学年	男子	女子	合計	学級数
1年	19	24	43	2
2年	23	19	42	2
3年	31	18	49	2
4年	28	20	48	2
5年	20	25	45	2
6年	25	20	45	2
合計	146	126	272	12 (特別支援3)